

自然共生河川研究所(岐阜分室)だより

岐阜分室 研究第三部 次長 梅谷内 信夫

建設省木曽川上流工事事務所と岐阜県土木部の若手職員が一緒になって「木曽三川自然共生研究会」を開催しています。

この研究会は講義を室内で受けるだけでなく、現場へ出て自分の目で確かめ肌で感じることによって自分のものにしていこうということで、午前中に講義を聞き午後は現場に出てご指導いただいています。

今回は去る10月21日に「河川植生とトンボ類のかかわりについて」という題で木曽川水系河川環境保全モニターの柴田佳章先生に講演をいただくと共に、木曽川の河川敷にあるトンボ池の現場に出向き研修を受けました。

このトンボ池は、堤防の近くにあることから昭和48年頃に埋立る計画で、一部埋立てを始めたわけですが、この池には多くの種のトンボが生息しており、且つ、ムスジイトトンボという貴重種もいることから柴田先生が中心になって保存運動をされ、残していこうということになりました。

また、将来埋立てる必要が生じた場合、新たな池にスムーズに移せるか調査するため、新たに池を造成し、その遷移も調査しており、全国版の研究誌にも載っていることからこの池を選びました。

講演の内容は概略下記のようなものでした。

- ・この辺一帯を笠松町は「トンボ天国」と名付け、保護運動を続けており、7科41種が確認されている。岐阜県内には約100種生息しているがその約半分ぐらいがこの地に生息していることになる。
- ・出現時期はトンボによって異なるが5月の最初から見られるのは、ホソミイトトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、セスジイトトンボ、ホソミオツネイトトンボ、シオカラトンボ、6月に入るとキイトトンボ、7月に入るとアジイトトンボなどが出現する。また、アカトンボの仲間である、ミヤマアカネ、ナツアカネ、アキアカネ、マイコアカネ、マユタテアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ、キトンボなどは7月以降に出現し、11月初めまで見ることが出来る。
- ・造成池は1975年6月に完成したが、その年の9月には4科8種だったものが1982年8月には5科16種に、1988年には6科18種と増加すると共に固体数も格段に増えている(別表参照)。
- ・これは池の中にヨシ、ガマ、サンカクイ等が増えたこと、ヤ

ゴのエサとなるイトミミズ、ボウフラ、ミジンコ等が増えたこと、水辺に樹木が成長してきたことによると考えられる(造成池の植生は自然のままとした)。

- ・トンボの行動範囲は種によって大きく異なる。イトトンボ、シオカラトンボなどは池の近くの草むらでエサを取り、近くの樹木に休んで成長する。コシアキトンボ、チョウトンボなどはもう少し遠くまで飛んでエサを取り池に帰って繁殖する。オニヤンマなど大型種はもっと遠くまで飛ぶ。ウスバキトンボは沖縄の方から九州、大阪と順に北上し、1ヶ月ぐらいで卵から成虫になるトンボで、よくアカトンボと間違われるので注意が必要。アキアカネは50~100kmも旅するトンボで5~6月頃池を出て夏は高い山で生息し秋に里にのびてくる。
- ・トンボが交尾したり産卵をするためには、植物がどうしても必要であり、エサを取るためにも、水中の植物、水辺の植物、近くの樹木が大切となる。また、コバネアオイトトンボ、アオイトトンボ、コシアキトンボなどは日陰が好きなトンボであり、草むらが必要である。
- ・ヤゴの期間はほとんどが1年であるがギンヤンマで2~3年、ムカシトンボで6~7年である。
- ・最近トンボ池周辺が整備されすぎて場所によっては草むらの幅が3mぐらいしかないところもあり、トンボの生息から見ればもっと幅広く残してほしいものである。

造成池のトンボ(成虫)の個体数

種名	調査年			
	1975	1976	1982	1988
	調査月日	8月7日	8月4日	8月14日
1)キイトトンボ		数頭	72	11
2)ベニイトトンボ		14	12	32
3)アジイトトンボ	約10		++	15
4)アオモイトトンボ	+			
5)クロイトトンボ		数頭	++	13
6)セスジイトトンボ		10	+++	16
7)ムスジイトトンボ		数頭		
8)モノサシトンボ	+		61	28
9)コバネアオイトトンボ				10
10)ウチウヤンマ			1	
11)ギンヤンマ	+	3	4	3
12)オオヤマトンボ				1
13)ハラビロトンボ			2	
14)シオカラトンボ	+	+	3	8
15)ショウジョウトンボ		+	9	18
16)コフキトンボ			6	2
17)ナツアカネ	+			
18)アキアカネ	+			
19)マイコアカネ			1	1
20)マユタテアカネ	+			21
21)リスアカネ				1
22)キトンボ			2	
23)コシアキトンボ			5	1
24)ウスバキトンボ				2
25)チョウトンボ			5	49
種数	4科8種	3科8種	5科16種	6科18種
総個体数(推定)	38	77	243	232